

山岳科学総合研究所 友の会公報

2013年1月 第8号



「雲上の世界」 撮影：栗澤 徹

もくじ

年頭のごあいさつ	2
第3回憧憬の森講演会 報告	2
上高地クエスチョン	3
会員リレーコラム	3
・市川 荘一 「謹賀新年」	
・松田 俊雄 「熊避けの鈴」	
・立花 裕美子 「木曾でお待ちしています！」	
おしらせ	6
編集後記	6

年頭のごあいさつ

友の会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

2013 年の初春を迎え、皆様方のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。



年末の大雪と悪天候に見舞われ、正月早々山岳遭難事故が多発してしまいました。西穂高岳、明神岳、大天井岳と立て続けに起きましたが、どれも悪天候の中の行動が裏目に出てしまったのではないのでしょうか。

“なんで”、“まさかこんな所で”、“どうして”と想定外の危険が山に潜んでいるという覚悟と配慮が足らなかったのでは・・・。山岳遭難が少なくなることを願っています。

昨年は幸いな事にお天気に恵まれ、大勢の登山者を迎える事ができました。20代～30代の若い山ガールも増え、夏には家族連れの方も目立ち、山を満喫していました。紅葉もきれいでした。我々小屋番はこのような登山者に対し、山のマナー、モラル（早出早着、山岳保険の加入、すれ違いは山側で待つ等）と現地の登山道情報、天気情報を発信してゆく所存です。

昨年遅れには、友の会の上高地帝国ホテルの大瀬支配人の講演会があり、その姿勢と取り組みには深い感銘を受けました。

本年も各種事業を計画しておりますので、大勢の会員の皆様のご参加を期待しております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

友の会会長 山口 孝

第3回憧憬の森講演会 報告

2012年も押し迫った12月16日、信州大学理学部C棟大会議室におきまして、第3回憧憬の森講演会を開催しました。

今回は少し視点替え、上高地帝国ホテル大瀬高央総支配人に、国内を代表する山岳リゾートホテルの歴史とホスピタリティについて、話をさせていただきました。

【ホテルの1年】

上高地帝国ホテルの営業期間は、おのずと上高地開山中となるわけだが、その予約解禁は2月1日ということで、当日は50名のスタッフがかかりきりで予約を受け付けるとのこと。

4月に先遣隊が入って除雪が始まり、スタッフは中旬に大型バス3台で一斉に入山、スタッフ同士のコミュニケーションを図りながら営業準備を始め、開山祭前後から営業を開始する。

ちなみに12年度の場合4月26日から11月10日の間営業し、おおよそ25,000人のお客様に利用いただいた。

総支配人以下約100名のスタッフが、寮で一緒に生活しながら経営に携わっており、ほかに清掃等のパート20名ほどを雇用している。

【ホテルの歴史】

昭和7年（1932年）外貨の獲得や外国人観光客の誘客を目指し、類まれな自然景観の地である上高地に本格的なリゾートホテルを、という長野県知事の要請を受け工事に着手し、大正池の電源利用のために開削された道路を使って、東京からトラックを20台導入しての突貫工事で、1,200tの木材を使いわずか4カ月で完成。翌昭和8年

10月に「上高地ホテル」という名称で開業したのが始まりだ。

この年バスが上高地まで入り、昭和9年国立公園に指定、この年の入山者数は50,000人という記録が残っている。

1836年名称を「上高地帝国ホテル」とし、昭和52年全面改修して現在に至っている。

【ホテルのおもてなし】

日本初の本格的な山岳リゾートホテルとして、他の帝国ホテルと同様のサービスを基本としているが、東京・大阪のホテルはシティ・ホテルであり、都会はビジネス客が多いなど客層が違う。

帝国ホテルには「さすが帝国ホテル実行テーマ」が9つあるが、上高地ではそのうちの「気配り」に重きを置き、ちょっとしたカード一枚で天気や自然情報をお伝えするとか、自慢の天然ミネラルウォーターをさりげなく提供するなど、気配り=目配りで上高地を訪れたお客様がその自然の素晴らしさを満喫し、さらにホテルライフを堪能していただけるよう、スタッフ一同日々腐心している。

…上高地帝国ホテルは2013年10月、開業80周年を迎える。このアニバーサリーに1シーズンを通してイベントを展開し、より多くのお客様を迎えたい…



? 上高地クエスチョン?

? この時期ケショウヤナギはなぜ赤い?

ケショウヤナギの云われは、若木の枝幹が白粉を塗ったように白くなり(こちらは年中)、晩秋から早春にかけて枝先が徐々に紅色に変わって化粧をしたようだ、ということから名づけられたといわれています。

この季節、上高地梓川河岸に生育するケショウヤナギは、次第に赤く色付いてきます。ケショウヤナギは高木類の柳の中では枝が細かく、比較的密生しているため、遠くから見ると鮮やかな紅色でモノトーンの上高地でひととき目立ちます。

カエデ類などで早春を前に枝先が色づいていくものもありますが、ケショウヤナギのほどのあでやかさはありません。芽吹きの前に枝の色が変わるのはなぜなのでしょう?

リレーコラム



謹賀新年

皆様あけましておめでとうございます。今年も「信州大学山岳科学総合研究所友の会」をよろしくお願い申し上げます。

サテ私、友の会副会長は昨年一年を振り返りますと、山の上の行事はプロ中のプロ「山口友の会会長」と「運営委員会」の皆様にお任せし、ひ



たすら平地でのお酒の宴を満喫するただの呑んべー親父で終わったことを反省しつつも楽しい一年でありました。

その中で、福島の子供キャンプや上高地ファミリーハイキングで出会った子供たちのすばらしいこと！！今の子供たちは昔の俺たちと同じでいい子ばかりです。そこで私は皆さんと一緒に子供たちに雪の上でも火を焚いて燠を作れること教えてやりたいなあ———とと思いました。俺にはできないが「奥原仁作」さんなんか上手いんだろうなあ・・・なんて思いながら今書いています。それは「火を焚きてえー」と思っても今は火を焚かせてもらえません。キャンプ場は直火禁止。オートキャンプで、ご飯は電気釜持参でスイッチオン！これじゃ子供の火遊びはどこもできません・・・

飯盒でひっくり返しの真っ黒ご飯や、石焼目玉焼きや燠の中に薩摩芋放り込んでの焼き芋。子供のころ河原でデカイ火を焚いたことを何故か今やりたくてたまりません。公然とできる子供の火遊びは「三九郎」の「どんど焼き」かなあ？

福島県の子供らが火の回りに集まった瞬間にガァ———と元気になる。大人も一緒にワーっとデカイ声のでる。やっぱり火だなあ。俺・・・何書きたいんだ？？

「火」だ。今年は火遊びやろう！！子供も大人も火遊び野郎になってデッカイ火を焚きましょう。子供に火遊び教えましょう。

友の会の皆さんは逢う度に、「昔はかなりの餓鬼大将」だったろうなあ？って顔に書いてあるそんな人ばかりです。また旨い熱燗酒を呑みましょう。

今年も皆様新年から熱く、熱くよろしくお願い致します。

友の会副会長 市川荘一



熊避けの鈴

上高地でガイドをしていて日ごろ考えている一つを記してみたいと思います。

毎年シーズンには多くの人達が上高地を訪れます。そうした中“チーンチーン”とかん高い音を周囲に撒き散らし散策する人も良く見かけるようになりました。そうです “熊避けの鈴”です。本当に熊は避けてくれるのでしょうか？まあ、その効用の論議は別として鈴を着用する人達にマナーとして守ってもらいたい点を提言します。

山行きの時は着用していると言う人は家を出るときから鳴らし通しではないでしょうか。駅・電車・バスの中など、自分では慢性になっていて気付かないまま鳴らしていると思います。それが証拠に、山に着き見通しの良い道で人々が列をなしている様な場所でも平然と鳴らし続けています。雑踏から離れての静かな環境・可愛い小鳥たち・小さな動物等々すばらしい自然の世界に入ってきて自らそれらを遠ざけるような行為をしていると同時にそうした自然を求め楽しみに来ている他の人にも迷惑を掛けているのです。鈴を鳴らしている人の後ろに続いてみてください。頭が痛くなるほどです。

とうぜん小鳥・動物たちは逃げてしまいます。すこし考えてみてください人が列をなしていたり人声でガヤガヤしていたら熊は人の存在に嫌でも気付くと思いますし、それでも出てくるようなら鈴も同じ結果をよぶと思います。何時でも何処でも着用しているということはただ他の人に迷惑を掛けているだけなのです。こうしたことを考慮して鈴の着用マナーとして鳴らす時間・場所を考え普段は鈴の中にティシュペーパーなどを詰めるなどして音を止める心がけをしてもらいたいと思います。



因みに8月に田代橋左岸上流から約5~600mを40分くらい熊さんと同行しました。最初に田代橋50m位上流の散策道左下の林の中に草を食べて居る姿を見つけたのです。ご存知のようにこの散策道は何時も人通りが多くガヤガヤと人声など絶えません。そうしたすぐ横7~8mの所で餌を食べながら移動をしていたのです。もちろん鈴を着けた人も通りましたが反応は0です。ただ餌を物色しながらも人の動きには神経を尖らせており少しでも草むらに足を踏み入れ音を立てるとそく敏感に反応しておりました。そんなことから危険を感じ写真を撮る人には絶対にフラッシュを光らせないように、また大きな音・声をださないように注意をしながら同行したしだいですが、途中3回ほど道の右側(帝國ホテル側)の林に行こうと道まで顔を覗かせましたが道路左右に人が居ることを確認して戻ってしまうという行動がありました。もしこの時に誰かが大きな声を出したり騒いでしまったら乗鞍事件と同じに熊はパニックになり人を襲うようなことになったと思います。このように私と熊さんの縁は深く去年は雪崩に巻き込まれた熊・交通事故に遭った熊を拾い、一昨年は湯の丸でホテルのゴミを漁りにきていた熊と、毎年なにかとの関係を持っております。もちろん彼らの身もサシミ・焼肉・すき焼き等で私の血肉となっております。いろいろな意見があると思いますが話し合える機会ができれば楽しいことと思います。

松田俊雄



木曾でお待ちしています！

「山が好き」という理由だけで、友の会の仲間に入れていただき1年が経とうとしています。グリーンシーズンには数々のイベントのご案内をいただきましたが、仕事と自分の山行、子どもとの活動等で、中々日程が合わず、松本での懇親会のみ参加という輝かしい実績の1年となってしまい申し訳なく思っています。



そんな中、今回リレーコラムを依頼され、戸惑っていますが、私にとって24年一番のアクティビティをご紹介します。

24年9月8日、御嶽山に源を発する王滝川の最上流部と言われる本谷の魚止めの滝まで遡行しました。40代~60代、男性3人と私の4人です。午前4時半、真っ暗な中、車2台で出発。途中、クマに遭遇しながら林道を2時間、長野県の西端へと向かいました。7時、いよいよ歩きははじめ・・・標高約1430m、水温は13℃、ウールソックスと溪流たびでも冷たさを感じます。腰より下の浅瀬はザブザブ入っていけるのですが、荷物を背負った上半身は濡れたくないので、深い淵は高まきで進んでいきました。

4人のうち魚止めの滝まで行ったことのあるのは1人、しかも10年以上も前とあって、コースタイム的な資料はありません。秋の陽はつるべ落としのこの時季、夕方4時には車に辿りつきたいと思いながら歩を進めました。11時には目的地に到着したいと思っていたのですが、到着は12時50分になってしまいました。歩いた距離は地図上では約4km、標高約1640m地点、落差は30~40m、幅は上部で2~3m、下部で10mほどでしょうか。この夏は少雨傾向だったのに水量豊富で、こんな奥深いところで人知れず水を落とし続ける滝に心を打たれました。

30分ほど釣りと昼食休憩を取り、午後1時半帰途へ。車に乗ったのは午後5時半を回っていました。振り返ってみると、10時間以上の遡行はやや無謀だったかもしれませんが、川を渡り、崖を上り下りした10時間はこの上もなく楽しい一日でした。そし

て、御嶽山の懐の深さ、山と川、水の織り成す自然の豊かさに改めて心奪われた体験となりました。

聞くとところによると、今年5月には、木曾での現地学習（研修）会が予定されているとのこと。「木曾路はすべて山の中である」と藤村が記したとおり、松本のような山と都市という景観ではなく、山村ばかりですが、自然の豊かさは壮大で、この本谷のように人が足を踏み入れたり手を加えることができないところが多く残っています。皆さんに楽しんでいただけるようなプログラムが企画できるよう微力ながら尽くしていきたいと思っています。

木曾でお待ちしています！

立花裕美子

お・し・ら・せ

◎第6回現地研修会「ふたたび乗鞍高原の厳冬を楽しむ」

すでにご案内をお送りしておりますが、2月16日・17日に第6回現地研修会を行います。皆さんのご参加をお待ちしております。

申し込み締め切りは2月1日です。

◎第6回運営委員会報告

12月16日通算6回目となる運年委員会を開催しました。

この中で、先にご連絡しました乗鞍現地研修会の件、また時期総会の日程など基本的なことが話し合われました。主に決まったことだけお知らせします。

総会ですが、4月7日（日）午後の予定です。事業計画や予算について、また、役員改選もあります。第7回現地研修会は5月18・19日で、木曾方面を予定しています。

このほか事業計画への会員の皆さまからの提案をお持ちしています。

◎リレーコラムと表紙写真を随時募集しています

日ごろ思うことや、山への思い、友の会への要望や提言などなんでも結構です。隔月で発行を予定しています会報へ「コラム」をお寄せください。

また、表紙を飾る写真も募集します。応募が多数の場合は、ご期待に添えない場合がございますので、何とぞご了承願います。



編集後記

新年早々上高地に入山しました。今冬も各所で工事がされており、大雪が降らない限り、許可車で明神手前まで入ることができます。最近冬の上高地を訪れる人たちが多く、歩道は踏み固められ、スノーシューなしで容易に歩けます。

冬季トイレが4か所管理されていますが、心ない人が路傍のあちこちにその痕跡を残しており残念です。

今のところ昨シーズンより積雪も多く、入山者も多い気がします。ルールを守って荘厳な上高地の神秘に触れてほしいと願っています。
(友の会会報編集委員会)

山岳科学総合研究所友の会会報 第8号

発行日：2013年1月23日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp